

編集後記

編集長(ダン シロウ)

ずっと編集を担当していると、そのスケジュールに、時々
の出来事が重なってくる。今回は発行直前の3/10~12、オアフ
島ホノルル・フェスティバルで、東北被災地で12年以上継続
中の家族応援プロジェクト・マンガ展を実施することになった。

そのため編集大詰め期にハワイにいたことになった。ネット
環境さえあれば、どこだろうと問題はないので大丈夫と思っ
ているが、こういう一寸した変更がストレスになる。

空港でグローバル wifi のルーター？を借りて持参して、今、
ワイキキビーチに近いホテルで、執筆者とページ入力につい
てやり取りしている。わざわざそんなことしなくてもいいようなも
のだが、ちょっとはしゃいでいるのだ。

まあこんなこともきっかけに、少しずつ世代交代してゆけば
良いと思うが、まだしばらくは何とかやっていくのだろう。

* *

今号もまた、新規連載者が登場。実に順調に膨張を続けて
いる。先日、仕事場に来訪した連載者の一人K君が、一冊だ
けプリントアウト・製本したマガジンを見て、「ごっついなあー」と
嘆息していた。A4版300ページ超えの雑誌なんて、印刷した
らとんでもない分厚さ。気になる記事だけお読みください。そし
てマガジンのこと、誰かにも教えてあげてください。

* *

誰が読むのか知らないけど、今回の編集後記。まるで私の
ファンクラブ通信みたいになっている。二人の編集者は編集長
が好きだなあ・・・なんて、届いたものを読んで笑ってしまった。
でも、この顔ぶれで年4回の編集会議、だべりながらcoco 壱
のカレーを食べるのがそれは楽しい。

編集員(チバ アキオ)

仕事に行く。ある程度めどをつけて、研修のための打ち合
わせへ。いつもはオンラインか、自分の職場に来ていただくこ
とがほとんど。この時期、少し外に出た方がいいかもしれない
と、打ち合わせを先方の職場にしてもらった。…と言ってもそこ
は同じ京都市内。阪急電車と京阪電車を乗り継いで到着。は
やめについたので、近くで昼食をして先方の職場へ。そこは京
都市の深草。学生時代、友人が住んでいてよくウロウロした。
自分が担当している学生も住んでいるし、数年前も龍谷大学

の見学に息子ときた。そして51号短信の内容に続いて、また
伏見である。今日、打ち合わせをしたケアマネさんは千葉の以
前の勤務先横大路学園で、お世話になったプラントスタッフの
方の娘さんだという。知らなかったし、先方もそれで私を知った
わけではなく、全くの偶然である。そして打ち合わせも終わり。
今夜は対人援助学マガジンの編集会議。職場に戻っても1時
間程度しかない。はやめに編集会議の会場近くに行って、あ
れこれ仕事をしよう。そして、最近よく行く上島珈琲へ。ウイ
ナーコーヒーホットを頼み、席を探す。電源付きのいい席が空
いている。ここにしよう。座ると向かいの席とは擦りガラス的な
ブラ衝立で仕切られてお互いに向かい合っているが、顔は
見えない。迎えの方も何やらプリントアウトをしたものと確認し
ながらパソコンの作業をしている。頼んだものを見るとウイ
ナーコーヒーのホットのようだ。私と同じ?! 少し衝立からは
み出ている姿を確認すると団士郎編集長だった!

こういう確率はどのくらいあるだろうか。まず、私が車を辞め
たのが大きい。行動が公共の交通機関ベースになる。また、
偶然この店を選んだ。ドトールに行って辞めて、スマート珈琲
に行って辞めて、ここである。以前、車なしの生活をしている大
先輩団編集長にきいたことがある。車以外の公共の交通機関
を使っていると「こんなところでこんな人と出会うか?!」とい
うことが起こると。「その偶然も面白いよ」と教えてもらった。確
かにこういうことが起こる。そういえば、前日に訪れた本屋では
知り合い二人に出会った。そのうちの一人は、数日前にその
人のライブ配信を観ていた人である。こうした移動も公共の交
通機関である。偶然という出来事は、それぞれにとっては日常
の一コマが重なることであるが、それが一気に非日常になる。
そして関係性にも作用する。

「車なし」という千葉の人生への編集作用は大きい。あんな
にクルマ好きだったのに! 20年以上の知り合いからはそう言
われた。1年たって、平均歩数は増加し、健康診断の結果は
数値が軒並み標準に戻った。何より歩くことが苦ではなくな
った。こないだは電子レンジを載せるようなコマつきのキッチンワ
ゴンをカップルで市バスに乗って運んでいる異国の方に出会
った。ハートが強い! 私も強くいきたい。けれども先日は気に
入った椅子を買って、タクシーで帰った。それでも負担は知れ
ている。何とかなるものである。ちょうどこの号が出る頃で、車
なし実験が1年経過。車有の前年の1年の1日平均歩数は
4144歩。車なしの1年は1日平均6001歩。暑い時期は歩数
が落ち込み、体調崩して寝込むと落ち込み、それでも冬場は
結構歩くことができることが分かった。

先日、海外に行くこともありクレジットカードでの買い物の環境も再度整えた。新幹線などの国内移動のためにICカードもデビューした(失敗はあるが)。ついでに嵐電カードも。今まで現金生活だったので管理するモノが増えると、なくす可能性も必然的に高まる。それでもチャレンジしないと自分の変化はない。日常に飽きさせない自己編集能力も必要だろう。なんとかペイは未経験。メルカリは経験した…こうして自分の人生の編集は死ぬまで続く。マガジンの原稿はもちろん、短信からも見えてくる、マガジン執筆陣の方々の人生編集こぼれ話もいつも学びにつながっている。…編集長は作業に区切りをつけて颯爽に退店した。素早い！後で聞いたら、ウインナーコーヒーではなく黒糖入りミルク珈琲だったそう。こうして編集は後からでもできる。それが運命論からの解放とやっぱり豊かな可能性を秘めていることになるのではない。

編集員(オオタニ タカシ)

失敗や不正があっても誰も責任を取らずにツケを後回しにしていく。この姿を何度も見せていることが次世代の意思をいかにくじいてきたかを痛感するし、自分自身もこの社会を作ってきた一員であるから、この責任は他人事ではない。では、何をすべきか、と考えると、身近なところから自分にできるバックアップや応援をしていくことからと思う。そして、それは過去に私自身が先輩の方々からしてもらったことであり、次の世代につなぐ責任があることであるとも気づかされた。

今号の編集よりひと月ほど前に、団編集長の「家族の練習問題9」の発刊を記念して行われた対談を視聴した。1冊の本について著者と校正者のやりとりを目の当たりにするという稀な機会、校正も対人援助も「何も起こらない」ことが最上の結果であるという団先生のコメントに感じ入るとともに、校正についての指摘に本気で悔しがる牟田さんの姿から、プロの仕事の何たるかを改めて考えさせられた。そんなこともあって、今号の目次編集はいつもよりチェック回数を増やし、確認事項も念入りになる自分が、少しわかりやす過ぎて笑ってしまった。

対人援助学マガジン

通巻52号

第13巻 第4号

2023年3月15日発行

<http://humanservices.jp/>

■ご意見・ご感想■

マガジンに対するご意見ご感想は

danufufu@osk.3web.ne.jp

マガジン編集部

第53号は2023年6月15日

発刊の予定です。

原稿締切2023年5月25日！

執筆者募集

本誌は常に書き手に門戸を開いています。新たなジャンルからの、執筆者の登場に期待します。

自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、自分だからこそ描ける分野の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。

ページ制限なしの連載誌です。必要な回数、心置きなく書いていただけます。ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。

執筆資格は学会員であること。 現在非会員で書いていただく事になった方には、本誌は学会ニューズレターへの位置づけですので、[対人援助学会への入会](#)をお願いしています。

対人援助学会事務局

540-0021

大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&FAX学会専用 06-6910-0103

表紙の言葉

非行少年と書いてみて懐かしい気がしてしまった。そんな存在は昔話になったのだろうか？不良少年なんて死語に近いのか。暴走族やタケノコ族などといった言葉が次々登場した時代、若者に元気があった証でもあるのだろう。

学生運動も階級闘争の破壊活動も、反戦デモやストライキも世間から消えた。

そしていつしか疾病寄りの診断を付けられがちな若者群と、己の高齢化ばかりに関心の向かう老人の世の中になってしまった。

日本だけではなく世界がそんな空気になってきて、高齢権力者の軍拡や独裁、戦争誘導にためらいがなくなった。

好まない人もいたが昔は、若い世代が自分たちの未来のために、多少の暴力性を含んでも抑止機能を果たしていた。非行、不良もその基盤に重なっていたのかもしれない。

団士郎 (2023/03/15)